



一四 麗氣記私鈔 れいきししやう

麗氣記神圖書私鈔 れいきしんずししやう

図書館所蔵、河野省三記念文庫一一〇号。写本一冊。線装本四ツ目綴。斐紙渋染表紙。二七・八×二〇・四種。七十七丁。左肩上の題簽に「麗氣記鈔 共十五卷 全」と記す。また、右上部に墨書で「神」とある。本文と異筆。本文巻頭に「麗氣記第一巻私鈔」とあり。本文首葉に「紫雲文庫」「賀茂」「岡本保可」「□家蔵」、末葉にも「賀茂」「岡本保可」の印記あり。料紙は楮紙。『麗氣記私鈔』十四卷（墨付六十七丁）と『麗氣記神圖書私鈔』（三丁。以下『神圖書私鈔』）で構成される。

※ ※

本書は、両部神道の代表的な書とされる『麗氣記』の注釈書であり、浄土宗（珍西派）第七祖、了誉聖罔（暦応四年・一三四一〜応永二十七年・一四二〇）による著述である。聖罔が同じく注釈書として著した『麗氣記拾遺鈔』の奥書に「応永八年（一四〇一）とあることから、おおよその成立時期が知れる。『麗氣記』は、「二所大神宮麗氣記」「降臨次第麗氣記」「天地麗氣記」「天照皇大神宮鎮座次第」「神天上下次第」「豊受皇大神鎮座次第」「心柱麗氣記」「神梵語麗氣記」「万鏡本縁神靈瑞器記」「神号麗氣記」「神形注麗氣記」「三界表麗氣記」「現図麗氣記」「仏法神道麗氣記」の十四巻と神体図四巻の全十八巻からなるが、その成立などについては明らかでない。この点を本書冒頭では、「問、

此_レ記_ハ是誰人_ノ作也、答、此_ハ是_レ役行者_ト弘法大師_ト傳教大師_ト延喜_ノ帝_四人_ノ御製作也、於中正_ニ是_レ十八卷_ニ書調_ハ候御事_ハ延喜_ノ帝_廿位_廿一年正月十八日_ニ依_レ龍神_ノ指南_ニ記置_レ之_レ給_ル也」とする。

本学図書館には本書の他に、堤家旧蔵本『麗氣鈔』があり、巻頭に「麗氣記第一巻私鈔」と記し、内容を同じくする。しかし、この堤家旧蔵本は『麗氣記私鈔』全十四巻のみであり、本書に『神圖書私鈔』が記されていることは特筆すべきことである。この『神圖書私鈔』には、『麗氣記』における神体図に関する説明が記されている。『麗氣記』では、鮮やかな色彩により図が描かれているが、『神圖書私鈔』には描かれてはいない。また神体図は四巻あるが、『神圖書私鈔』では一巻のみの説明に留まり、他巻に関しては記されていない。

（永田忠靖）

【所収本】

徳江元正「麗氣抄（其一）」『日本文学論究』五十三冊）に翻刻、（底本「堤家旧蔵本」、翻刻は未完）、平成六年（一九九四）

【参考文献】

松田貫了「聖罔の麗氣記鈔に就て」『大正大学学報』十四輯、昭和八年（一九三三）
大正大学総合仏教研究所神仏習合研究会編著『校註解説・現代語訳 麗氣記I』法蔵館、平成十三年（二〇〇一）